



浮延縄漁による 海鳥混獲の防止

夜間投縄

概説

2019年5月更新

夜間投縄とその仕組み

一般的に、海鳥は近くにある餌を探すときは視覚に頼ります。このため、海鳥が餌を獲るのはほとんどが日中となり、夜間の活動は最小限にとどまります。したがって夜間の投縄は、海鳥の混獲や餌の損失を減らす方法として、シンプルかつ極めて効果的です。混獲されやすい海鳥の大半は夜間の活動は限られています。ノドジロクロミズナギドリのように夜間活発に餌を求める種類の海鳥もいます。このような海鳥には夜間投縄はあまり効果的ではありません

夜間投縄は、月明かりのない場合に特に効果があります。月明かりで明るい夜や、明るさの強いデッキライトを使用する場合は、その効果が薄れます。

アホウドリ類とミズナギドリ類の保存に関する協定 (ACAP) では、効果的な夜間投縄の方法として、投縄は海洋での日暮れ後まで開始せず、海洋での夜明け前、太陽が水平線よりも下にある状態までには終わらせることを推奨しています。海洋での正確な夕暮れや夜明けの時間は、航海年鑑 (Nautical Almanac) の表に緯度、現地時間、日付別に記載されています。投縄を夜間のうちに全て済ませることが重要です。海鳥の多くは夕暮れや夜明けに活発で、投縄の大半を夜間に行っても夜明け前の薄暮れや日中にもつこれむと、混獲される海鳥が多いと研究で報告されています。

デッキライトの使用は、船員の安全確保に適切な最小限にとどめ、船内に向けて使用し、投縄の際に船を離れる漁具を照らさないことが大切です。

問題点と解決法

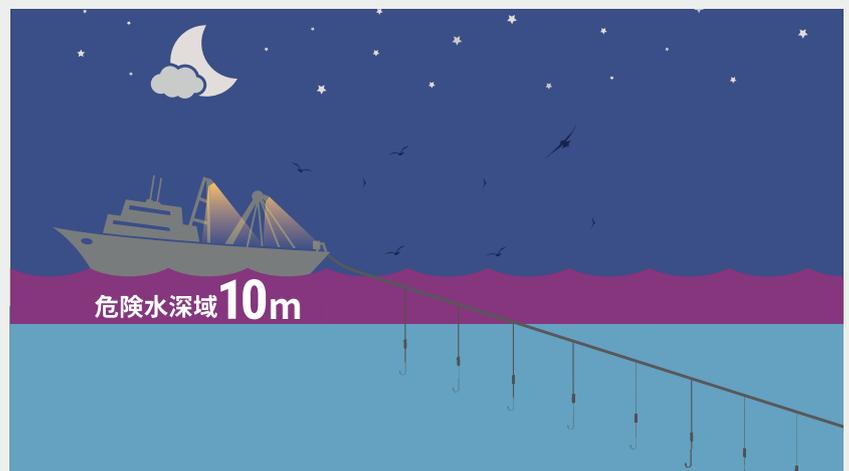
夜間投縄は、暗い夜のみとても効果的です。

高緯度では夏季の海洋での夕暮れと夜明けの間の時間は限られています。

投縄の時間によっては、対象種の漁獲率や他種の混獲に好ましくない影響を及ぼすかもしれません。

他の混獲回避措置との併用

月に満ち欠けがあり、夜間に餌を獲る海鳥がいることから、夜間投縄は加重枝縄やトリライン (吹き流し) と併用する必要があります。



連絡先

ローリー・クロフォード (Rory Crawford) バードライフ・インターナショナル海洋保全プログラム; 英国王立鳥類保護協会 (RSPB) ザ・ロッジ自然保護区 (Sandy, Bedfordshire, SG19 2DL, UK) Eメール: rory.crawford@rspb.org.uk 鳥類生態 英国慈善団体登録番号: 1042125

ACAP (アホウドリ類及びミズナギドリ類の保存に関する協定) 事務局 (119 Macquarie Street, Hobart 7000, Tasmania, Australia) Eメール: secretariat@acap.aq



アホウドリ類やミズナギドリ類
の海鳥は、延縄漁やトロール漁
に最も影響を受けています

夜間投縄
海鳥があまりいない
時間帯に行うので、
混獲を減らすのに
役立ちます



トリライン(吹き流し)
危険エリアから
鳥を追い払うのに
役立ちます



危険水深域 10m

海鳥の多くは、
水深10m以内で
餌を狙います

加重枝縄
釣鉤をできる限り
速く危険水深域
より深く沈めることが、
混獲を減らすことにつながります

